

研究奨励賞 被推薦者(候補者)応募資料作成方法

研究奨励賞 被推薦者(候補者)は下記要領で選考資料を提出してください。

1. 提出期限

推薦年7月31日厳守

※期日までに提出されない場合は、失格となります。

2. 提出要領

電子メールへの文書添付では受け付けません。ご注意ください。

下記3. に示す提出選考資料の準備が整いましたら、本会WEBサイト(<http://www.scej.org/award/apply.html>)より、所定の方法にて電子ファイルをアップロードしてください。

なお提出ファイルは一つの圧縮ファイルとしたうえで解凍パスワードを設定する等、セキュリティに十分ご配慮ください。

※アップロードから一週間以内に受領の返答無き場合はお問い合わせください。

3. 提出選考資料

1) 登録論文・関連論文 (PDF: ファイル名は「研究奨励賞 (お名前) 登録or関連論文 001~003」)

- ・研究項目を挙げ、関連する論文1編をPDFでご用意ください。
- ・被推薦者が筆頭者でない場合、被推薦者本人が「主な研究者であることを証明する」文書(別紙)を添付してください。
- ・審査は登録論文について行われますが、補足的に関連論文を3編以内挙げるができます。別途PDFファイルでご用意ください。

2) 研究業績の内容説明書 (WORD等+そのPDF: ファイル名は「研究奨励賞 (お名前) 内容説明書」)

- ・A4用紙2枚以内にまとめてください。
- ・業績内容の記載に際しては、以下の分類に従いその位置づけを明快に示してください。
①独創性・新規性・先見性等学問上の貢献度

なお、候補者が既に他の本会学会表彰を受賞している場合は、これらの賞の主要部分と研究賞対象業績との相違が理解できるように、別紙に既受賞業績概要を2,000字以内にまとめ、あわせて提出して下さい。

3) 学位論文の概要 (WORD 等およびその PDF ファイル: ファイル名は「研究奨励賞 (お名前) 学位論文概要」)

- ・A4用紙1枚以内にまとめてください。
- ・概要が応募の登録論文と近い場合は、どのような点に違いがあるかを明記してください。

4) 経歴書 (WORD 等およびその PDF ファイル: ファイル名は「研究奨励賞 (お名前) 経歴書」)

- ・A4用紙に、職歴および各職場での上長名を記載して下さい。

5) 候補者基礎データ票 (EXCEL ファイル: ファイル名は「研究賞 (お名前) 基礎データ」)

- ・本会WEBサイトよりExcelのテンプレートを入手し、必要事項を入力してください。
- ・研究業績分野(本資料2ページ目に記載の分類)から、上位3分類(順番も考慮すること)を選択し、記載してください。受賞された場合には直近年会における当該分類一般セッションにて受賞記念講演を賜ります。

4. 連絡先・問合せ先

〒112-0006 東京都文京区小日向4-2-8大樹生命文京小日向ビル4F

公益社団法人化学工学会 学会表彰担当

TEL : 03-6801-5563(代)

FAX : 03-6801-5564

E-Mail : soumu@scej.org

研究業績分野

下記小分類から上位(最大)3分類を選択してください。(例: 12-c, 9-a, 11-c)

受賞された場合には直近年会における当該分類一般セッションにて受賞記念講演を賜ります。

[1. 基礎物性] 1-a 平衡物性・輸送特性 1-b 固体物性 1-c 薬品の毒性・引火点 1-d エンジニアリングデータ 1-e その他	[7. バイオ] 7-a 生物プロセス 7-b 生体反応 7-c 生物分離 7-d 遺伝子 7-e メディカル 7-f 生物情報 7-g 環境生物 7-h 食料・食品 7-i その他	[12. 材料・界面] 12-a 界面制御 12-b エマルション 12-c 機能性微粒子 12-d ナノ粒子 12-e ゲルテクノロジー 12-f マイクロカプセル 12-g 晶析 12-h 塗布技術 12-i 微細構造形成・複雑分子集合体 12-j 機能化高分子素材 12-k 材料プロセッシング 12-l 材料レオロジー 12-m その他
[2. 粒子・流体プロセス] 2-a 熱物質流体工学 2-b 攪拌・混合操作 2-c 流動層技術 2-d 気泡塔・懸濁気泡塔 2-e 混相流 2-f 粉体プロセス 2-g その他	[8. 超臨界流体] 8-a 単位操作 8-b 基礎物性 8-c 分離・抽出 8-d 反応・物質変換 8-e 材料創製・製造 8-f 環境負荷低減プロセス 8-g その他	[13. 環境] 13-a 水環境プロセス 13-b 排水処理技術 13-c 化学物質のリスク・管理 13-d 循環型社会設計手法 13-e リサイクル技術 13-f 地球環境 13-g CO ₂ 問題, 地球全体の炭素循環 13-h その他
[3. 熱工学] 3-a 熱的単位操作 3-b 燃焼・プラズマ・伝熱 3-c 熱交換器 3-d 各種エネルギーシステム 3-e マイクロおよびバイオテクノロジーへの伝熱・輸送現象の展開 3-f その他	[9. エネルギー] 9-a エネルギー開発 9-b 蓄熱・増熱・熱輸送技術 9-c 炭素系資源利用 9-d 熱エネルギー利用 9-e 新エネルギー・エネルギーシステム 9-f その他	[14. 広領域] 14-a テクノロジーマネージメント 14-b 経済評価・市場調査 14-c 教育 14-d JABEE 14-e その他
[4. 分離プロセス] 4-a 膜工学 4-b 固液分離 4-c 蒸留 4-d 吸収 4-e 吸着・イオン交換 4-f 抽出 4-g 晶析 4-h 乾燥 4-i 特殊分離法 4-j その他	[10. 安全] 10-a リスクコミュニケーション方法 10-b オペレーション設計法 10-c 安全設計 10-d 変更管理 10-e 安全性評価手法 10-f 安全技術伝承 10-g 少人化・無人化問題 10-h 物質安全 10-i その他	
[5. 反応工学] 5-a 触媒反応工学 5-b ソノプロセス 5-c 活性種化学 5-d 反応分離 5-e 反応装置 5-f マイクロ化学プロセス 5-g バイオマス 5-h CVD・ドライプロセス 5-i その他	[11. エレクトロニクス] 11-a 電気化学プロセス (電池, めっき, 等) 11-b 電子材料プロセス (半導体製造, 電子回路製造, 等) 11-c 微細加工技術 (エッチング, 薄膜形成, 等) 11-d 高信頼性設計 (高放熱, 短絡現象, 等) 11-e インターコネクション技術 (接着, 接合, 等) 11-f 環境持続可能技術 11-g その他	
[6. システム・情報・シミュレーション] 6-a プラントオペレーション 6-b プロセスエンジニアリング 6-c プロセスダイナミクス応用 6-d プロセス制御 6-e 最適化手法 6-f 情報処理技術 6-g その他		